

平成 25 年度第 2 回 GBIF 日本ノード運営委員会議事録

2014 年 3 月 31 日 福田

日時：2014 年 3 月 25 日 13:00 ～15:00

場所：A P 東京八重洲通り

出席者：伊藤、大久保、大澤、大原（副委員長）、小池、白木澤、多田内、細矢、藤倉、松浦(委員長)、三橋、山崎剛、山崎由の各委員

オブザーバ：柴田 泰邦 環境省自然環境局 自然環境計画課 生物多様性国際企画官  
中川原 秀樹 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係長  
美和 秀胤 環境省生物多様性センター調査科 技術専門員  
高久 宏佑 環境省生物多様性センター生態系監視科 技術専門員  
石川 忠 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻特任研究員  
岸本 圭子 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻学振特別研究員  
戸津 久美子 国立環境研究所  
海老原 淳 国立科学博物館植物研究部・研究員  
神保 宇嗣 国立科学博物館動物研究部・研究員  
中江 雅典 国立科学博物館動物研究部・研究員  
福田 知子 国立科学博物館植物研究部・支援研究員

欠席者：柴崎（委任状有り）、城石（委任状有り）、中山の各委員。

NBRP: 佐藤 清 NBRP 事務局長

事務局：熊野 有祐 国立科学博物館 研究推進管理課

開会宣言、欠席委員からの委任状開示。

## 【1】平成 25 年度各機関の報告事項

### 国立科学博物館（細矢）

1. ワークショップ(12/14)、研究会（2/17）を開催した。
2. S-Net の資料件数は約 336 万件である。
3. 沿岸地名に関する地名辞書を追加した。
4. 全国コレクションデータベースについて、公開を準備している。
5. S-Net での研究員・学芸員データベースについて。
6. データ入力についてのマニュアルを作成し、データ提供と入力に関する説明会を開催（釧路、富山）した。
7. JBIF パンフレットを改訂した、
8. GBIF 関係の文書の翻訳を提供した。

<質疑>

- GBIF 関係翻訳はどこでみられるか？（藤倉）

PDF, word の形で原案を JBIF HP より公開予定 (ダウンロード自由)。

- マニュアルのダウンロードはできるか? (大原)  
ユーザーからの意見をもらってから改訂、公開の予定 (細矢)  
改訂より先にオンラインで出す方がよいのでは? オンライン上で修正可 (伊藤)
- 学名のシノニムについての処理は? (多田内)  
統合DBセンターに学名のリストが利用できる (大久保)  
基本的には、データ提供者による学名を尊重している。GBIF においては Backbone taxonomy をもとにした「名寄せ」機能がある (細矢)。  
学名については、元の標本ラベルと一致する学名を入力し、一致しない場合、オリジナル name を備考に残すことにしてきたはず (三橋)

#### 東京大学 (伊藤)

1. GB20、AP-BON ワークショップなどに参加し生物多様性情報の国際標準化に対応した。
2. 昆虫の種名のチェックリストを作成した。
3. 生物観察・観測データの収集・電子化を進めている。
4. 種情報システムと DNA バーコードシステムを構築中。

<質疑>

- バーコードデータを本部からダウンロードできるサービスがなくなったが、ダウンロードができなくなったのか? または iBOL (The International Barcode of Life Project) の方からできるのか? (遺伝研山崎)  
日本は iBOL に参加していないのでダウンロード不可。入って検索しかできない。他機関は iBOL と国として MoU を結んでデータのダウンロードをやっている (伊藤)。
- MoU を締結する場合、日本を代表するのはどこか?  
政府機関、国立研究所、JST とか文科省とかであろう (伊藤)。  
DDBJ の全配列からキーワードなどで、一部は見られるが、配列自体が非公開というものが結構あるので、MoU 締結が必要。情報としては、今後、GenBank のデータに地理情報がついたデータが GBIF から使えるようになる (伊藤)。
- 種名チェックリストを整理する予定はないのか? (三橋)  
昆虫等については GBIF で公開したいが、学会内での調整がついておらず、公開について了解が得られていない。九大の目録を参考にすることも考えている。JBIF サイトから公開できるようにするのを目指す。維管束植物については GBIF から公開予定。

#### 国立遺伝研究所 (山崎)

1. サーバマシンおよびポータルサイトの運用を継続。IPT2 導入については、脆弱性対策 6 項目を今朝までにすべてクリア、GBIF で確認した。

2. GBIF データ登録・公開、各種サービスを更新した。

#### ワーキンググループ活動報告（細矢）

1. オープンデータ会合（台湾）、AP-BON 会合（フィリピン）、分子生物学会（神戸）、S-Net ワークショップ（大阪）に参加し、活動を紹介した。
2. JBIF のパンフを改訂した
3. 地球規模生物多様性情報概況（GBIO）の監訳、アジアレッドリストの統合作業を行っている。

以上の報告の他、佐藤 NBRP 事務局長より、名古屋議定書（ABS）の現状、来年度の NBRP 事業についての紹介があった。

## 【2】平成 26 年度各機関の活動計画

### 国立科学博物館

1. 毎年恒例の研究会・ワークショップを開催する。
2. S-Net の標本情報、学芸員検索用のデータの拡充を促進する。
3. 全国コレクションデータのデータベース作成を継続する。
4. S-Net/GBIF の活動に対する理解促進のため広報活動を継続する。

#### < 質疑 >

- データの活用状況はどのように把握しているか？（白木澤）  
データを出すことが義務なのではなく、データベースを使うと自分の利益になる、ということユーザーに理解してもらうことを目標としたい。S-Net に関する説明会を開催するほか、地理情報で分布図を作る方法などを、動画マニュアルなどで提供する予定（細矢）。

### 東京大学

1. 種名チェックリストを充実する。  
分類学会連合からも国内 GBIF からも、生物多様性情報を俯瞰できるようなものを作ることが望ましい。分類学会連合とも協力して作業中であり、将来的にポータルにまとめたい。以前分類学会連合で行われた「日本生物種数調査（日本の生物は何種いるかの調査）」では、作成当時より情報が充実してきた。問題は、チェックリストの完成度が分類群ごとに違うことである。

### 国立遺伝研究所

1. ポータルサイトの安定運用・利用促進を図る。
2. GBIF データ登録、GBIF カタログに登録されていない学名の問題を解決、和名辞書更新。

#### < 質疑 >

- 国際 GBIF の学名カタログで、新種はどれだけ早く更新されるか？（多田内）

GBIF の学名は Catalogue of Life に基づいている。新種は Zoological record と連携しているの、正式に発表されたものは、自動に更新されるはず (動物・植物)。日本だけで使われている学名は、Catalogue of Life などを経由で GBIF に伝えられる(伊藤)。

Zoological Record と連携するより前に登録された新種は抜けている。GBIF には種名リストを登録する Checklist Bank というがあるのでそこに登録すればよい (神保)。

その他、伊藤委員から 3 月に行われた GBIF mid-term 会議についての報告があった。議題は、GBIF 支出計画、理事会の運営上のルール確認など。

GB21 は、9 月 16-18 日、インド・ニューデリーで開催。

#### <全体への質疑・コメント>

- 生物分布情報というのは、全国調査、市内調査、どの範囲の調査？  
生物多様性活動への反映 (社会への還元) について情報がほしい。  
地方の博物館にもデータがあるとわかって訪問者が増えると良い (小池)。
- 活用事例。集まったデータは、そのままでは使いにくい。まとまったデータをどのように使えるか、をもっと提示すべき (山崎剛)  
実際、そちらに力を入れる予定である。データの増加に携わる人、学芸員の活動として示せる人など、ターゲットごとに使い方のヒントを提案していく予定 (細矢)。  
活用法については GBIF 本部でも重要視していて、GB でのサイエンスシンポジウムは GBIF のデータ活用をテーマとしている。さらに、GBIF データを使った研究にアワードを出すなどの案が出ている (伊藤)。
- 環境省へも含めたお願いとして、我が国での情報の扱いを国家戦略の中での枠組みを検討されたい (三橋)。
  - ・種名、RDL, 種名の入れ方など交通整理のための検討会。
  - ・わが国における生物多様性情報の発信についての勧告
  - ・現状として公表しているものはダーウィンコア形式に準拠していること、など。
- GBIO 翻訳の話が出たが、中身を見ると、日本の考え方にはまだ根づいていないものやコンピュータ関係の難語が多い。理解できるものにすべき。また、アプリケーションの開発はオープンイノベーション方式でやるべきである (大久保)。  
GBIF から提供されているアプリケーション (IPT など) はオープンソースで、ベンダーロックインの心配はない (山崎)

閉会あいさつ

以上